

## 「旧熊谷陸軍飛行学校桶川分教場整備事業基本設計図書」（抜粋と要約）

H28. 5. 22 旧陸軍桶川飛行学校を語り継ぐ会

平成 27 年度に桶川市がものづくり大学横山研究室に委託して作成した旧陸軍桶川飛行学校跡地の整備計画（案）が明らかになりましたので、その概要を報告いたします。桶川市は、この案をもとに桶川市としての具体的整備計画を定めるものと思われます。

### 【整備コンセプト】（図書の抜粋）

◇「風化していく戦争の記憶を学ぶ」 戦争の悲惨さについて、戦争体験者・歴史資料（遺品、建造物）などから学び、平和について考える機会づくりをする。

◇「平和を未来へ語り継ぐ」戦後 70 年を迎える今日、戦争体験者の証言、遺構、資料は失われている。桶川飛行学校に関する資料の収集・記録・保存を行い、後世に伝えることで平和への理解を深める。

### 【目指す施設整備のかたち】（同）

- ① 旧陸軍熊谷飛行学校桶川分教場の歴史的な価値を保存継承する。
- ② 追憶し、感性に訴える施設とする。
- ③ 親しみやすく、地域に開かれた施設とする。

### 【設計図書の要約】\*本会による解説

戦争の遺跡を保存継承し、その歴史を語り継ぐというコンセプトは

言うまでもありませんが、計画は、『今回整備計画』案と『将来整備計画』案に区分され、『今回整備計画』案では、①本部兵舎、②守衛所、③車庫、④便所の 4 棟を一旦解体したうえで復元(全解体復元)し、建物内部では飛行学校の歴史資料を展示し、車庫内では戦闘機の実物大に近いレプリカ(模型)を展示するというものです。中央の庭は、現在の草・砂利から芝生とインターロッキングブロックを敷き詰めたイベント広場とします。

横山研究室の最終的目標としての提案『将来整備計画』では、消滅してしまった本部兵舎の東側にあった「風呂・食堂棟」、同裏(北)にあった「教室棟」の 2 棟を新築復原し、さらに、河川側(西側)の大きな雑木林となっているのり面も大きな樹木を伐採して、遠く荒川や秩父の山々を見渡せるような緑地帯としたうえで、河川敷に沿って走るサイクリングロードとも連繋する。また、東側の谷を埋め立ててバスが発着できる大型駐車場を整備するというものです。研究室による最短のスケジュールとしては、平成 28 年度 建物解体調査、29 年度 実施設計、30、31 年度の工事、32 年春の竣工となっています。

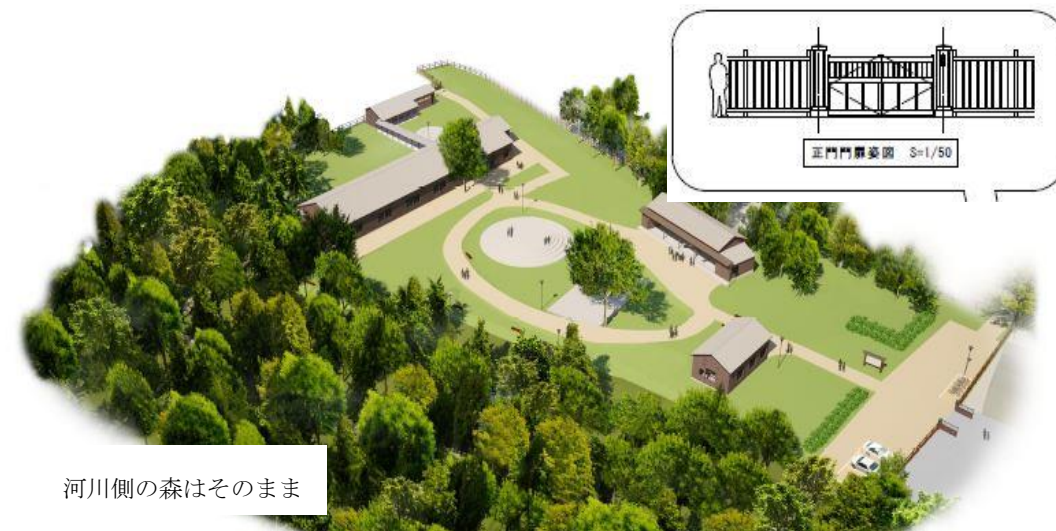
\*現在、飛行学校敷地から雑木林の間をぬってのり面(坂)を下りると河川敷で、サイクリングロードが走り、その脇には地面をならしただけのグラウンドがあります。グラウンドは洪水の時は水没してしまう、ただ地面を平らにしただけの簡易なものですが、月 3、4 回野球やソフトの大会が開かれています。

\*【平成 28 年度に行う事業】現在の建物の木組みの仕方などを記録しながら詳細に調べるとともに、各部材がどの程度使用できるか、各部材に番付をしながら丁寧に解体し、復元に向けて部材を保管しておく作業を実施する。進捗状況は正門跡の前に掲示して市民にお知らせする予定。

今回

下図：今回整備計画（案）

正門イメージ



河川側の森はそのまま